

ヘムライブラ®皮下注

在宅自己注射ガイド [ツートック使用版]

自己注射の準備

- 注射の準備は、明るい場所で、平らなテーブルで行ってください。
- テーブルの上をきれいに拭いてください。
- 石けんで両手をよく洗ってください。
- 冷蔵庫からヘムライブラの箱を取り出し、ヘムライブラの規格が正しいか、ヘムライブラと皮下投与セットの箱に書いてある使用期限が過ぎていないかを確認してください。
- ヘムライブラは外箱のままテーブルの上におき、**15分かけて**室温に戻してください。
- 15分たったらヘムライブラと皮下投与セットの箱をあけ、バイアルが室温に戻っているか、必要なものがすべてそろっているかを確認してください。
- バイアルの中の薬液に、粒や塊がないか、薬液が不透明になっていないか確認してください。
- シリンジ・針に破損がないか使用前に確認してください。



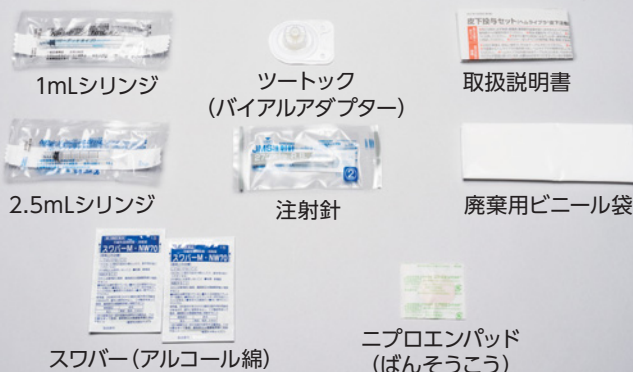
必要なもの

薬剤の入ったバイアル



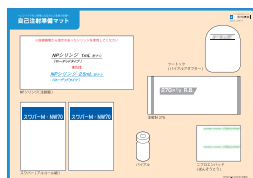
※医療機関から指定されたバイアルを使用します。

皮下投与セット



その他

※必要に応じて使用します。医師・看護師・薬剤師にご相談ください。



自己注射準備マット



プライミング補助具



ヘムスタンド



洋服クリップ



Buzzyミニ
(注射部位冷却用品)



ヘムサポート(自己注射補助具)



廃棄ケース



ヘムライブラ®の在宅自己注射手順

Step 1 バイアルから薬液を抜き取る

① ゴム栓を消毒する



- バイアルのキャップをはずします。
- スワブ（アルコール綿）でゴム栓を消毒します。

！ 薬液を抜き取った後は、長時間放置せず、すぐに注射をしてください。

② ツートック（バイアルアダプター）をつける



- ツートックの保護シールをはがし、ケースにいたまま、バイアルにはまるまで上からまっすぐにしっかりと押しこみます。
- ツートックのケースのみははずします。

！ ツートックの針の部分に触れないよう注意してください。

③ シリンジをつける



- ツートックの上部に、シリンジ（注射器）を取りつけます。

！ ツートックとシリンジの接続部位に触れないよう注意してください。

④ バイアルから薬液を抜き取る

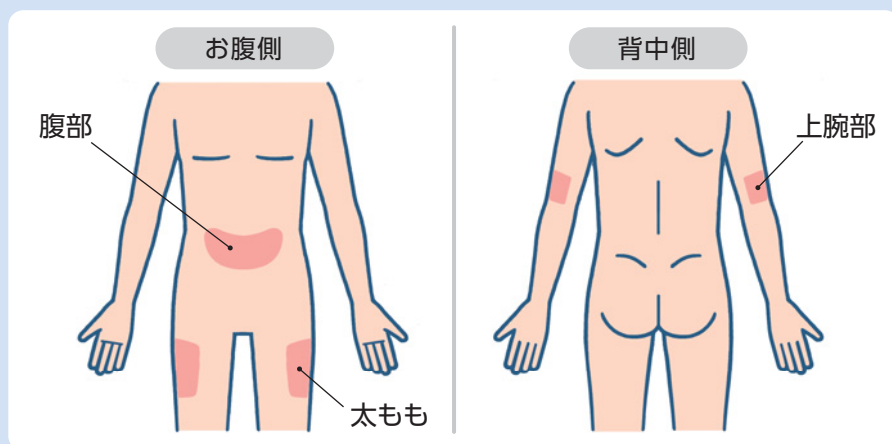


- バイアルを上にして薬液ができるだけ泡立たないように押し子をゆっくり引き、薬液をシリンジにつめます。

！ 手を放すと押し子が引き戻されることがありますのでご注意ください。

Step 2 皮下注射する

① 注射部位を決める



- 腹部、太もも*、上腕部**などに注射します。注射部位は毎回異なる場所で、前回の注射部位から3cm以上離れた場所に注射します。
- 1度に2カ所注射する場合は、1カ所ずつ必ず注射部位を変えるようにします。

* 乳幼児の太ももへの投与は、太もも前外側部に注射します。
** 上腕部への投与は、**保護者など、ご本人以外**の投与に限ります。

② 注射部位を消毒する



- 注射する部位とその周辺を、新しいスワブで十分に消毒し、外袋の上におきます。
- 消毒したところは、注射するまで手を触れないようにします。

※「ツートック」は、「フィルター付きバイアルアダプター」の正式名称です。

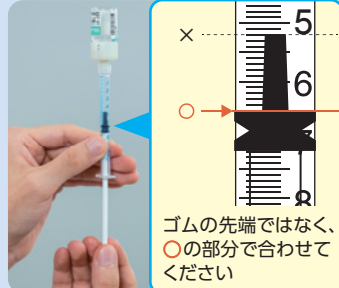
5 空気を抜く



- 指でシリンジを軽くはじいて空気を先端にあつめます。
- 押子をゆっくり押して、シリンジ内から空気を抜きます。

2つ以上のバイアルを使用する際は、シリンジをバイアルから取りはずし、同じシリンジを用いて①～⑤までの操作を繰り返します。

6 注射する液量に合わせて廃液する



- シリンジの目盛を確認しながら、少しずつ押子を押しして指定された液量に合わせます。
- シリンジをバイアルから取りはずします。

! 薬液をバイアルに戻したり、抜き取ったりする動作を繰り返すと、シリンジ内に気泡が入る可能性がありますのでご注意ください。

プライミング補助具の使い方

1mLシリンジでは、廃液にプライミング補助具を使用できます。

1



押子がプライミング補助具の青いネジに近くなる位置で取りつきます。

2



青いネジを右に回すと、少しずつ押子が押されていきます。

7 注射針を取りつける



- 注射針をシリンジに取りつけます。

3 注射する



- 針キャップをはずします。
- 消毒した注射部位の皮膚をしっかりとつまみ、皮膚に対して**30～60度**の角度で注射針の付け根まですべて刺します。
- 血液の逆流が**ない**ことを確認し、押子を最後まで押し切り、薬液がすべて入ったら、同じ角度を保ちながら皮膚から注射針を抜きます。
- **針キャップはつけないで**廃棄ケースに廃棄します。

4 注射部位をおさえる



- 注射針を刺していた場所にスワバーをあて、**もまず**に数分間しっかりとおさえます。
- 注射部位から血が出ていないか確認し、ニプロエンパッドをはりましょう。
- 注射部位の腫れ・出血が止まらないなどの異常がみられたら、ヘムライブラを処方された医療機関へ連絡してください。

注射後の注意

ヘムライブラ使用中に何か異常が認められた場合は、ヘムライブラを処方された医療機関へ連絡してください。

よくみられる副作用（注射部位反応）

ヘムライブラを注射した場所に下記のような症状があらわれる場合があります。症状があらわれた場合は、ヘムライブラを処方された医療機関に連絡してください。

注射部位反応の主な症状

赤い発疹 かゆくなる 皮膚の下に血がたまる はれ・出血・痛み じんましん

廃棄について

- 注射に使用したものは、ヘムライブラを処方された医療機関の指示に従って廃棄してください。
- 注射し終わったシリンジは、**注射針をつけたまま、針キャップはつけずに**廃棄ケースに廃棄してください。
- 廃棄ケースは、小さなお子様の手の届かないところに保管してください。

自己注射にあたって

- 自己注射は、必ず医師、看護師、薬剤師の指導を受け、許可をもらってから行ってください。
- 注射に慣れた後も正しく安全に自己注射できているか、医師、看護師、薬剤師からの確認を受けてください。
- 用法及び用量を守ってください。
- スワバー（アルコール綿）は、粘膜、創傷面には使用しないでください。また、目に入らないように注意してください。
- 今までに薬や化粧品によるアレルギー症状（例えば、発疹、発赤、かゆみ、かぶれ等）を起こしたことがある人は使用前に医師、看護師、薬剤師に相談してください。
- スワバー、ニプロエンパッドの使用後、発疹、発赤、かゆみ、かぶれ等があらわれた場合は使用を中止し、医師、看護師、薬剤師に相談してください。

トラブルシューティング

● 薬液や、シリンジ・針などに異常が見つかった場合は？

- ➔ 新しい別のものを使用してください。
異常がみられたものは、状態や原因を確認するため、廃棄せずにヘムライブラを処方された医療機関に持参してください。







● ツートックケースがはめにくい・はずしにくい場合は？

- ➔ はめにくい場合は、てのひらで体重をかけながらケース全体を上からまっすぐに押しこみます。
はずしにくい場合は、ケースのふちを持ち、回しながら上にむかってまっすぐはずします。



● バイアルから薬液を抜き取る際に、押子が引き戻されて十分に取れない場合は？

- ➔ いったんシリンジを抜き、バイアル内に空気を入れてから薬液を抜き取ってください。

<p>1</p>  <p>バイアルを上にしたままシリンジ（注射器）内の薬液をバイアルに戻します。</p>	<p>2</p>  <p>バイアルを机の上に置き、ツートック（バイアルアダプター）からシリンジを取りはずします。</p>	<p>3</p>  <p>押子をゆっくり引いてバイアルに入っている薬液と同量の空気を入れます。</p> 	<p>4</p>  <p>ツートックの上部にシリンジを取りつめます。</p>	<p>5</p>  <p>押子をゆっくり押し、シリンジ内の空気をバイアルに入れます。</p>
---	---	--	--	---

トラブルシューティング

● バイアルから薬液を抜き取った際に、シリンジ内の薬液に細かい気泡が発生した場合は？

➡ シリンジをツートックからはずさず、シリンジを上向きにして静かに待ってください。数分後には気泡がなくなります。気泡がなくなってから指定された液量に合わせてください。



痛みを感じるときは

- 事前に注射部位を冷却することで痛みが軽減するといわれています。
- 注射部位の冷却にBuzzyミニを用いる場合、注射部位にBuzzyミニを30秒～120秒間当てた後、注射部位を消毒し注射します。詳しい使い方はBuzzyミニの箱に同封された取扱説明書をご確認ください。
- 同じ場所に注射し続けると、皮膚が硬くなり痛みが出やすくなるため、毎回異なる部位に注射しましょう。また、注射部位は腹部のほうが上腕部や太ももよりも痛みを感じにくいとされています。



Buzzyミニ 電子添文 2021年11月(初版)
山口創 著. 皮膚感覚の不思議. 「皮膚」と「心」の身体心理学. 講談社, 2006
Zeraatkari K, et al.: Can J Anesth. 52(Suppl 1): A109, 2005

監修

聖マリアンナ医科大学 小児科学 名誉教授
聖マリアンナ医科大学 小児科学 講師
聖マリアンナ医科大学病院 看護部 看護師

瀧 正志 先生
長江 千愛 先生
吉川 喜美枝 先生

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社



ロシュグループ